



金津本陣 IKOSSA に
歴史を学びにこっさ！

郷土歴史資料館 イベント



冬季企画展 開催中！

北陸最大級の横山古墳群―神奈備山古墳とその系譜―

横山古墳群は、国道8号の中川交差点から瓜生交差点辺りまでと、そこから坂井市丸岡町坪江・川上に広がっている丘陵地帯に点在しており、中川を上にして上空から見るとし字型をしています。300基を超える北陸最大級の古墳総数もさることながら、その中に越前で築かれた前方後円墳の約四分の一が集中することでも、研究者の間で注目を浴びています。

本展では、数少ない発掘事例で、横山古墳群中最大である神奈備山古墳の出土品を中心に展示をしています。その中には須恵器や馬具、玉、耳飾りなど、この地方に強大な勢力があったことを感じさせる資料が多数あります。本展示からあわら市の古代をご想像ください。



▲神奈備山古墳 出土須恵器

と き 3月22日(日) まで
ところ 一般展示室
(IKOSSA 2階)
入場料 無料

..... コラム あわら市の文化財・史跡探訪

第5回 福井県指定文化財(史跡) 千束一里塚

慶長9(1604)年、江戸幕府は東海、東山、北陸の諸街道を整備し、江戸日本橋を起点に一里塚を造らせました。一里塚の目的は、各地への里程(一里は約3.9km)と人馬賃の目安とし、旅人の便宜を図ったものです。

北陸道の道幅は三間(約5.5m)で、一里ごとに道の両側に五間(約9.1m)四方の塚を造り、塚が崩れないようにエノキなどを植えました。千束一里塚には、当初東側に2本、西側に1本のエノキがあり、旅人は木陰でしばしの休息を楽しんだとされています。明治以降、道路が拡張された際に、東側の一里塚が取り壊され、現在は西側の一里塚だけが残されています。



▲現在の千束一里塚
(花乃杜三丁目)

郷土歴史資料館(金津本陣 IKOSSA 2階)
休館日 月曜日・第四木曜日
※これらの日が祝日の場合はその翌日
開館時間 9時30分～18時(最終入館17時30分)
問合せ ☎ 73-5158

平成30年開催!

福井しあわせ元気国体

国体がやってくる!



思い出の福井国体

⑩ 2巡目福井国体に期待

(古屋石塚 野嶋 利榮さん)

昭和43年の福井国体(第23回国民体育大会)では、東レ金津バレーボール女子が5位に入賞し、福井国体天皇杯優勝に貢献しています。

その10年ほど前、私が大学のバレーボール部だったころ、西舞鶴高校でコーチをしていた先輩からのお誘いで、東レ金津との強化合宿のお手伝いをしたことがあります。当時、東レ金津の監督をされていた故・北川昭治先生とも懇意にさせていただいていたので、練習後の懇談会は大いに楽しく、懐かしい思い出となっています。それが東レ金津との出会いでした。

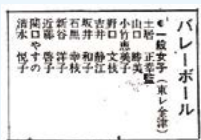
その後、昭和35年4月から福井実業高校男子バレーボール部の監督に就任し、福井国体出場に向けて取り組んでいました。福井国体では県全体の選手の強化部長として、取り組みました。その後の人生も、福井工業大学のバレーボール監督として歩んできました。

また、旧金津町は町技がバレーボールでしたし、旧芦原町もバレーボールが盛んな町でした。そこで、特筆す

べき戦績を残した選手がいっぱいなので紹介します。昭和37年、船谷健治さん(中番)が、福井実業高校2年時に東京オリンピックの強化選手に選抜され東西対抗戦で西軍のエースとして活躍したほか、実子の幸さんが平成4年の氷上高校3年時にインターハイで優勝しています。更に、藤野郁子さん(田中々)が平成7年に実業団シーガルズ在籍中に、国体で2連覇しており、大いに誇りに思っています。

4年後、福井国体成年男女バレーボール競技のあわら市開催を控え、市民総参加のもと好成績を挙げ、大成功のうちに終えることができるよう深く念じています。

国体準備室では、福井国体の思い出や写真を募集しています。
問合せ 国体準備室(スポーツ課内) ☎ 73-8043



あわら市 観光白書

平成26年実績

平成26年1年間にあわら市を訪れた観光客数は、18万9,200人(対前年比26万9,700人、17.4%の増)で、このうち宿泊客数が82万人、日帰り客数は99万9,200人となっています。

平成25年との比較

宿泊客数は前年並み

あわら温泉の宿泊客数は80万8,400人で、ほぼ前年並みとなりましたが、その内訳に変化が見られました。

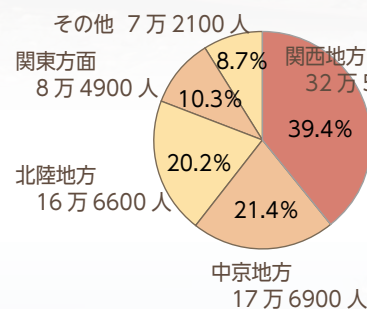
県内や北陸からの宿泊客数は、前年より減少したものの、首都圏や関西、中京、中国・四国からの宿泊客数は、大幅に増加しました。これは、平成27年3月の北陸新幹線金沢開業に向けて、全国的な注目が北陸に集まっていることや舞鶴若狭自動車道の全線開通による入り込み数の増加が要因だと考えられます。

日帰り客数は大幅増

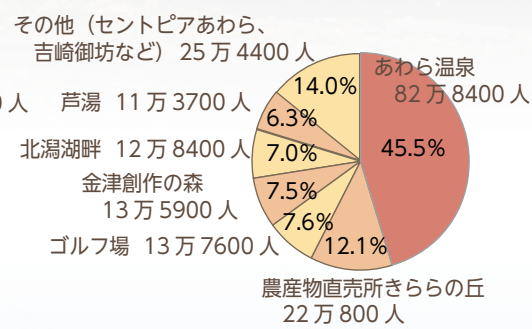
日帰り客数は99万9,200人で、前年と比較して27万8,000人、37.2%と大幅な増となりました。

この要因としては、4月にあわら温泉湯のまち広場にオープンした芦湯の入り込み数が純増し、それに伴う湯けむり横丁の入り込み数が好調だったことなどが挙げられます。また、「ちはやふるweek」やJ.R.芦原温泉駅前でにぎわい市など、新たな各種イベントの実施も入り込み数を伸ばしていると考えられます。

平成26年あわら市
地域別観光客数(県外客)



平成26年あわら市
観光地別入り込み客数



今後の対応

まちづくりでにぎわいを創出

あわら温泉では、北陸新幹線金沢開業後も引き続き、国や県の支援を受けながら、温泉情緒あふれる華やきのまちの創出と、地域で観光客のおもてなしができる空間の形成を進めます。さらにイベントを継続的に実施することにより、温泉街への人の流れと回遊性の創出に努めます。

一方、J.R.芦原温泉駅周辺においては、金津本陣にぎわい広場の観光拠点施設「aキューブ」を核として、金津本陣IKOSSAまでのエリアにおいて、回遊ルートの修景や誘導案内サインの整備、金津本陣飾り物展示施設の整備などを行うとともに、イベントなどのソフト事業の充実も図っていきます。

イメージ戦略で誘客

イメージ戦略として、映画「利休にたずねよ」や「サクラサク」などを手掛けた田中光敏監督による観光プロモーションビデオを活用したPRの展開や、漫画「ちはやふる」とのコラボレーションイベントなど、全国的な市の知名度アップに向けた取り組みを進めます。

平成27年10月には、J.R.グループ6社による大型観光キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン」が行われ、北陸が全国にPRされ、訪れる観光客が増える中、リピーター確保に向け、着地型商品の充実や二次交通の整備など、満足度向上に向けた取り組みを事

業者と連携して進めていきます。

さらに、あわら温泉で平成27年に開催される開湯130周年祭を機に、定期的なイベントを創出するとともに、地域が一体となって観光客をもてなす体制を整えます。

また、今後大きな可能性を秘める外国人観光客の誘致に向け、「温泉旅館に泊まる」という日本独自の文化の魅力を最大限に生かした誘客を図るとともに、受け入れ体制の強化に取り組んでいきます。

広域連携で北陸の魅力発信を

広域的な観光戦略では、「越前加賀広域観光推進協議会」や「福井坂井奥越広域観光推進協議会」、「芦原温泉駅ブロック観光開発協議会」、「越前加賀宗教文化街道・祈りの道」推進協議会などを通じて、近隣市町と連携した情報発信や施策の展開を行っています。

観光施策における広域連携のメリットは、「越前」「加賀」「北陸」といったエリアを前面に押し出して情報を発信し、各地の観光素材を生かした集客が図られることです。各市町がそれぞれの強みを生かし、観光素材や交通アクセス等について、統一したPRを展開していくことで、地域の魅力を全国に発信し、「あわら」の魅力向上へとつなげていきます。

問合せ 観光商工課 観光G

☎ 73-8029